

県立学校におけるクマへの対応について

令和8年3月 富山県教育委員会

I クマが出没した際の緊急対応について

- ①学校付近(通学路を含む)に出没
- ②学校からは離れているが、人的被害が発生し、河川等クマの移動想定ルートでつながっている。

登 下 校 時	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>職員間の情報共有と対応の協議<ul style="list-style-type: none">・ 登下校時刻の変更や臨時休業措置の判断<input type="checkbox"/>警察に連絡<input type="checkbox"/>通学時の安全確認<ul style="list-style-type: none">・ 警察へのパトロール依頼・ 職員による車での巡回<input type="checkbox"/>保護者及び児童生徒への連絡(緊急メールで連絡)<ul style="list-style-type: none">・ 出没情報の正確な伝達(目撃した場所やクマの大きさ、頭数等)・ 状況に応じて、保護者送迎、自宅待機等の対応について指示・ 登下校時の具体的な注意事項の指示
在 校 時	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>職員間の情報共有と対応の協議<ul style="list-style-type: none">・ 授業時間の短縮や部活動等放課後活動の切り上げ<input type="checkbox"/>児童生徒の安全確保と安全指導<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒の所在確認・ 屋内への避難・ 校舎一階の施錠(状況に応じて窓の施錠も)・ 屋外での活動の制限(体育、休み時間、部活動)・ 在校時及び下校時の注意事項を指導<input type="checkbox"/>警察に連絡<input type="checkbox"/>通学時の安全確認<ul style="list-style-type: none">・ 警察へのパトロール依頼・ 職員による車での巡回<input type="checkbox"/>保護者への連絡(緊急メールで連絡)<ul style="list-style-type: none">※登下校時と同様の対応
継 続 対 応	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>職員間の情報共有と対応の協議<input type="checkbox"/>保護者及び生徒への連絡(緊急メールで連絡)<ul style="list-style-type: none">・ 最新情報の更新・ 翌日の登校について・ 休日等屋外での過ごし方の指導<input type="checkbox"/>学校での環境整備と誘因物除去(ゴミ管理、校内外の点検、草刈り等)<input type="checkbox"/>不安を訴える児童生徒の確認と心のケア依頼※安全が確保されるまで上記の対応を継続する。

- ③郊外での活動場所に出没した場合
 - ・ 該当場所での活動は原則中止。人命を最優先に考慮して判断する。

2 ツキノワグマによる人身被害防止について

クマと出会わないために

- ・クマに自分の存在を知らせる。
- ・クマは嗅覚や聴覚が人間より優れているので、ラジオや鈴などで音を出して行動する。
- ・クマは明るい場所を避けるので、できるだけ見通しのよい明るい場所で行動する。
- ・クマの糞や足あと等を見つけたら注意して引き返す。
- ・早朝や夕方の外出には注意が必要。この時間帯は、単独での行動は避ける。
- ・クマの痕跡のあったところで行動しない。

クマに出会ってしまったら

- ・とにかく落ち着く。
- ・クマまで距離があるようなら、そっと立ち去る。
- ・クマが興奮するので、急に大声を出したり、物を投げたりしない。
- ・クマから目を離さずにできるだけゆっくりと後ずさりする。持ち物（防止や衣類等）を静かに地面に置いて、クマの注意をそらす。
- ・クマは「逃げるものを追う」習性があるので、走って逃げない。
- ・クマが襲ってきた場合は、地面にうつぶせになって、手を首の後ろで組む。（身を守る姿勢をとり、顔と首とおなかを守る）
- ・子グマに出会ったら、そっと立ち去る。見えなくても、近くに親グマがいる。

気を付けること

- ・自転車用のヘルメットをかぶる。（頭を守る）
- ・リュックサックを背負う。（背中を守る）
- ・通学では、一人にならない。友達どうして固まる。（クマが警戒する）
- ・登下校時に音の出るものを携行する。（クマ鈴、自転車のベル等）
- ・大声で叫ばない。（クマが興奮する）
- ・石や棒を投げつけない。（クマが興奮する）

3 各学校での取組事例

平時の対応例

- 校地内にクマを近づけないための対策をしておく。
 - ・ 児童生徒玄関等の出入り口は施錠
 - ・ 街灯の増設
 - ・ 生ごみを適切に処理したり、環境整備を行ったりして、クマが侵入しにくい環境を作る。
 - ・ 自動ドアの電源を切る。
 - ・ 校舎1階窓は施錠する。
 - ・ 外での活動ではクマ鈴を持つ。
 - ・ 玄関のガラス戸の低い位置に段ボールを貼る。
- 保護者や地域、関係機関等とクマ出没時の対応を協議しておく。
 - ・ 保護者への情報提供と注意喚起
 - ・ 登下校時の対応・・・保護者による付き添いや見守り、送迎等の依頼
 - ・ 複数の教員による登下校時の付き添い
 - ・ 車でのパトロール
 - ・ 屋外活動には、クマ鈴やクマよけスプレー、ヘルメットを持っていく。
 - ・ 複数ででの下校、クマ鈴や音楽等の音を出して歩く。
 - ・ 熊の生態について、児童生徒に指導したり、近隣に生息する生き物の糞等を掲示したりする。

<参考資料>

- 富山県／ツキノワグマによる人身被害防止について（自然保護課）
- クマ類の出没対応マニュアル－改定版－（環境省）
Ⅲクマ類に遭遇した際にとるべき行動 Ⅳクマ類の生態と現状（P72～78 参照）
[manual_full.pdf](#)
- 豊かな森の生活者 クマと共存するために（環境省自然環境局）
[docs5-kuma.pdf](#)
- 県立学校における熊への対応について（宮城県教育委員会）